

篷庵社賞受賞者

北 泰行 博士

立命館大学 総合科学技術研究機構 上席研究員
大阪大学名誉教授・招聘教授



【授賞理由】

北博士は長年大阪大学教授として、さらに立命館大学薬学部初代学部長、同大学総合科学技術研究機構副機構長・同創薬科学研究センター長、同大学招聘研究教授を務められ、門下生からは我が国の薬学を支える多くの人材が輩出しています。

研究面では、長年にわたり新規合成法・新規反応剤などの革新的な有機化学的手法の開発研究を行ってこられました。特に、超原子価ヨウ素反応剤を用いる合成研究で世界を牽引されました。例えば、同反応剤を用いて金属反応剤を使わないクロスカップリング反応を世界で初めて実現し、この分野に大きなインパクトを与えました。また、医薬品創製研究に資する反応開発で多くの成果をあげ、創薬研究の進展に寄与されました。独自の反応を活用した抗腫瘍活性天然物フレデリカマイシンAやディスコハブディンAの世界初の不斉全合成、創薬先導化合物の合成研究などにその例を見ることができます。北博士の研究成果は、Ang. Chem. Int. Ed. や J. Am. Chem. Soc. など化学系屈指の専門誌に掲載され、欧文誌約500報、被引用数20,000回以上、h-index 74等に表れています。

また、日本薬学会（理事、化学系薬学部会長、監事、有功会員）の他、多くの学協会、財団法人理事、評議員、賞選考委員長、シンポジウム組織委員長、国際誌編集委員などを歴任されました。現在、米国化学会（ACS）Emeritus Member、国際複素環化学会議（ISHC）Senior Fellowに選出されています。

このように長年にわたり薬学領域に多大な貢献をされました。

【略歴】

- 1972年 3月 大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了、薬学博士（大阪大学）
- 1972年 6月 大阪大学薬学部助手
- 1975年 9月 マサチューセッツ工科大学、文部省在外研究員（兼任、2年）

1983年 4月 大阪大学薬学部助教授
1992年 6月 大阪大学薬学部教授（分子合成化学）
1998年 4月 大阪大学大学院薬学研究科教授
2000年 4月 大阪大学産業科学研究所教授（兼任）
2006年 4月 大阪大学薬学部薬科学科長
2006年 4月 日本学術振興会学術システム研究センター専門委員（兼任）
2006年10月 日本学術会議連携会員（兼任）
2008年 4月 大阪大学名誉教授
2008年 4月 大阪大学産業科学研究所特任教授
2008年 4月 立命館大学総合理工学院薬学部初代学部長、薬学部教授（精密合成化学研究室）
2011年 4月 立命館大学総合科学技術研究機構副機構長
2011年12月 立命館大学総合科学技術研究機構創薬科学研究センター長
2015年 4月 立命館大学総合科学技術研究機構招聘研究教授
2023年 4月 立命館大学総合科学技術研究機構上席研究員、現在に至る
2023年 4月 大阪大学産業科学研究所招聘教授、現在に至る